

## 令和元年(平成31年)度 堺リベラル高等学校 学校評価

## 1. めざす学校像

建学の精神である「愛と真実の教育」「情操豊かな女子教育」を基本とし、新しい時代にはばたく力、生きる力を育む女子教育の理想をめざす

1. 明朗な女性の育成
2. 知性豊かな女性の育成
3. 実行力のある女性の育成

## 2. 中期的目標

1. 特色授業や行事を通して専門性を高める

(1) 本校独自の特色授業や行事を充実させる。

ア 「ダンス」「楽器」「演技声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に、「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。

※自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を **90%**にする。

イ 表現教育で培った力を発表する行事を設ける。発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、さまざまな環境で自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行先のハワイでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、海外で現地の方を含めてたくさんの方の前で自己表現する。また3年次の卒業制作発表(リベラルライブ)では3年間の表現教育集大成を保護者や外部からの観客の前で披露する場を設ける。

※自己評価アンケートで、発表する行事を通して専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を **90%**にする。

2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

(1) 1年次は習熟度別クラス編成をおこない、効率性の高い授業展開を目指す。また通常授業だけでなく、「早朝テスト」や「放課後補習」、「外部模試対策」、「長期休暇の講座」「外部予備校講師による勉強塾」など様々な学習環境を整備し、生徒に学習する場を与える。そして学習習慣を定着させることで学力向上につなげ、一人一人の進路の実現をする。

ア 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。

※令和元年(平成31年)度卒業の表現教育科6期生の進路決定率を **95%**にする。

イ 「外部予備校講師による勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。今年度も対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。

※「勉強塾」参加生徒の希望する進路の実現率を **85%**にする。

ウ 一人一台のタブレットを持ち、情報化社会に対応するための様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。

※タブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を **70%**にする。

3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育

(1) 生徒のマナー意識を高め、頭髪・服装指導を徹底し、身だしなみを整える。

ア マナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切に、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。

※自己評価アンケートのマナー意識の達成度を **80%**にする。

イ 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。

※自己評価アンケートの身だしなみ・服装・頭髪指導の達成度を **90%**にする。

## &lt;教職員&gt;

## ☆特色授業や行事を通して専門性を高める

- ① 専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は全体平均で86%となり、昨年度(81%)を少し上回った。特に、コミュニケーション力を高めるという項目は全員が達成できたを選び、教員主導型の指導から生徒が主体的に学ぶ環境が構築されてきたといえる。また、生徒の自己表現力の向上も86%となり、昨年に引き続いて高い教育効果を示しているといえる。
- ② 「表現教育の場や行事において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」という項目においては、昨年に引き続き100%を達成しており、全教員が表現教育の成果を感じることができている。授業の中で培った表現力を、学園祭や海外への修学旅行などで発表することを通じて、自己の振り返りができ、3年次に外部で行う卒業制作発表(リベラルライブ)でその集大成を見せる一連の流れが高い評価につながったと考えられる。また、保護者や外部の中学生などにも観覧してもらった感想からも非常に満足度の高い取り組みになっている。今後も生徒が主体的に関わることができる行事計画・運営を目指し、生徒たちの自己表現力と専門性を高めていきたい。
- ③ 「クラブ活動において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」も100%を達成した(昨年度は86%)。授業に限らず、クラブ活動にまで表現力の向上はつながっており、一人一人の表現をする場を多面的に設定・指導できたといえる。
- ④ ①～③のような成果に至った要因として、2年前の反省点の1つであった「多様化する生徒一人一人の力を見極め、力を伸ばしていくために、表現教育担当者の会議を増やし、情報交換を増やして対策していきたい」という意見が、引き続きPDCAサイクルで具体的に実施されたことがあげられる。
- ⑤ 指導方法や学校行事の工夫改善についての達成度は94%と大きく向上した(昨年度は64%)。昨年度に報告した「新しい取り組みを生み出す力の停滞」に教科担当が真摯に向き合い、同時に建設された新校舎で提供される学習環境と上手くリンクして効果をあげることができたといえる。今後は、来年度から始まる新大学入試にも掲げられている表現力を向上すべく、言語表現(スピーチ・ディベート・プレゼンテーション)の改善を大きな目標として掲げていきたい。

## ☆学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

- ① 昨年度に引き続き「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「外部予備校講師による勉強塾」を実施し、学習環境の整備を充実させてきた。この結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、88%と昨年度(69%)より大幅に上昇し、平成28年度の43%から見ると、この3年間で約40%の上昇を達成できた。リベラル高校開設から2年目にして、日常的な学習環境を大きく改革することで学習効果の向上を図った。その結果、「授業を大切にさせる」という項目においては全体でも100%を達成し、昨年度の79%を大きく上回ることができた。
- ② 一方、「学習習慣を定着させる」については67%にとどまった(昨年度は54%)。学校内で学習環境は整いつつあるが、家庭における学習習慣の定着にはまだ時間が必要だと考える。入学時の学力差を日々の学校内学習では補ってきたものの、中学時からの環境の変化に上手く対応できなかった生徒もいたことで全体平均として目標に及ばなかったといえる。幅広い学力層をもつ生徒に対し、教員側の求めるものが高くなってきているので、それに相応する生徒へのアプローチを考えないといけない。生徒一人一人に合った学習環境の追求とともに、今できなくてもこれからできるようになることを目標に、中身を充実させていくことが課題である。
- ③ 昨年度より一人一台のタブレットを持たせ、授業や行事、家庭学習での活用を試みた。また教員にも一人一台のタブレットを配布し、プロジェクターを利用した授業の取り組みやタブレットによる連絡事項の管理に挑戦した。結果、ICT教育の活用の達成度は67%と昨年に引き続き目標値に一步届かなかった。導入2年目としてはICT教育に取り組む教員の意識が高く、タブレットとプロジェクターを連携した新しい授業が多く見られ、生徒を主体とするアクティブラーニングに挑戦できた教員もいた。また平成28年度より取り入れた、学習支援のクラウドサービス「Classi」については、教員と生徒間を結ぶツールとしてかなり使いこなせるようになってきた。今後は、生徒が主体的にタブレットを使用できる場面を増やし、言語表現教育と連携した取り組みを増やしていきたい。
- ④ 「生徒に進路目標を設定させる」については71%と昨年度(69%)とほぼ同等であった。一方、「生徒の希望する進路を実現させる」は86%で昨年度(75%)より少し上回った。昨年度の反省点であった、従来の進路指導の段階的な取り組みが少しは改善されたが、3年スパンでの計画的進路指導の構築にはまだ少し時間がかかると考える。また、今年度の3年生の進路決定率は96%で(昨年度は85%)で目標を達成することができた。一方、勉強塾に参加した生徒の希望する進路実現率は100%(4名中4名)であった。特に今年度は現役で国公立大学(筑波大学)に合格を出すことができ、現場教員と勉強塾の先生との大きな成果だったといえる。来年度も高大接続による入試が大きく変わっていくことに教員もしっかりと対応して、生徒の進路目標設定のサポートをしていきたい。

## ☆身だしなみ・マナー指導による女子教育

- ① 昨年に引き続き、マナー教育「挨拶・頭髪服装」を指導方針として取り組んだ。そうした中で、マナー指導の工夫・改善については67%と昨年度(63%)とほぼ同じであった。新入生オリエンテーションで校長によるマナー教育を筆頭に、朝の挨拶運動や定期的な頭髪服装指導などを継続し、一定のマナー指導の形はつくれたと言える。校内だけでなく校外でも生徒からの挨拶ができるようになったのは、先輩が良い手本になってきている証拠である。一方、「生徒のマナー意識を高める」が56%と昨年度(60%)を下回った点から、今後はマナーの意味をしっかりと理解させ、自ら自然と振る舞えるマナー教育を徹底していきたい。
- ② 身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底することに関しては、67%と昨年度(50%)より少し改善した。堺リベラル高校開設により、頭髪服装で注意する生徒が減少してきていることが原因と考えられる。①とともに、新しい取り組みによる意識の改善を、次年度以降は1年次より計画的に指導を徹底していくことが必要である。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 特色授業や行事を通して専門性を高める</p> <p>2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現</p>	<p>ア 特色授業の取り組み</p> <p>イ 発表する行事の設定</p> <p>ア 学習環境の整備と進路の実現</p> <p>イ 勉強塾からの進路実現</p> <p>ウ ICT教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ダンス」「楽器」「演技声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。</li> <li>発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、様々な環境でより自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行のハワイでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、現地の方含めてたくさんの人の前で自己表現する。また、3年間の表現教育集大成としての卒業制作発表(リベラルライブ)を成功させる。</li> <li>家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」「外部予備校講師による勉強塾」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。</li> <li>「勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。昨年度に引き続き、対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。</li> <li>生徒一人に一台のタブレットを持たせ、情報化社会での様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。</li> </ul>	<p>&lt;表現教育科&gt; ア自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を<b>90%</b>にする。</p> <p>イ自己評価アンケートで、発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を<b>90%</b>にする。</p> <p>ア令和元年度卒業生の進路決定率を<b>95%</b>にする。</p> <p>イ勉強塾に参加した生徒の希望する進路の実現率を<b>85%</b>にする。</p> <p>ウ タブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を<b>70%</b>にする。</p>	<p>&lt;表現教育科&gt; ア「ダンス」「楽器」「演技声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法など専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は全体平均で86%(△)と少し改善された。特に、コミュニケーション力を高める達成度は100%(◎)で、教員主導型から生徒が主体的に学ぶ授業環境が整いつつあるといえる。</p> <p>イ発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は昨年に引き続き100%(◎)となった。先輩たちが道筋を作ってくれたおかげで、イメージができていた後輩たちの表現力は年々クオリティが高くなってきている。今後もひとり一人の個性が発揮できるように、行事の計画準備を更に完成度の高いものを目指し、生徒たちの自己表現力と専門性を高めていきたい。</p> <p>ア「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「外部予備校講師による勉強塾」「習熟度別放課後補習」などを実施して学習環境の整備を充実させた。その結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、88%(△)と昨年度(69%)より大幅に上昇した。また「授業を大切にさせる」という項目においては100%(◎)を達成し、昨年度の79%を大きく上回る事ができた。さらに、今年度の進路決定率は96%(◎)で目標値を達成することができた。</p> <p>イ 勉強塾に参加した生徒の希望する進路実現率は100%(◎、4名中4名)であった。外部の進路カウンセラーと連携し、綿密なスケジュールで1年間対応でき、今年度は現役で国公立大学への合格者を出すことができた。また、複雑化する入試制度の影響もあり、実際に進路選択に最後まで迷う生徒も多い中、今年度も1・2年生対象に早くから進路指導を進めてきた。来年度も高大接続による入試が大きく変わっていくことに教員もしっかりと対応して、生徒の進路目標設定のサポートをしていきたい。</p> <p>ウ ICT教育の活用の達成度は67%(▽)と目標値に一歩届かなかった。しかし、導入2年目としてはICTの活用に取り組む教員の意識が高く、タブレットとプロジェクターを連携した新しい授業が多く見られ、生徒を主体とするアクティブラーニングに挑戦できた教員もいた。また平成28年度より取り入れた、学習支援のクラウドサービス「Classi」については、教員と生徒間を結ぶツールとしてかなり使いこなせるようになってきた。</p>

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育	ア マナー教育への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>マナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。</li> </ul>	ア自己評価アンケートで生徒のマナー意識を高める達成度を <b>80%</b> にする。	ア 生徒のマナー意識を高める達成度が <b>56%</b> (▼) となった。またマナー指導の工夫・改善については <b>67%</b> (△) であった。取り組みとしては、校長による新入生へのマナー教育、朝の挨拶運動や定期的な頭髪服装指導を1年通じて継続しておこなうことができた。一方で目標値を下回っている原因として、新しい取り組みが提案できていない現状があげられる。しかし、生徒のマナー意識は年々向上してきている。校内だけでなく校外でも生徒からの挨拶が当たり前ようになってきている。先輩が良い手本になってきている証拠である。運動部員以外の生徒たちも、気持ちの良い挨拶をすることができている。今後は、マナーの意味をしっかりと理解させ、自発的な行動につながるよう努力したい。
	イ 身だしなみ指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。</li> </ul>	イ自己評価アンケートで生徒の身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底する達成度を <b>90%</b> にする。	イ 生徒の身だしなみ指導を徹底する達成度が <b>67%</b> (△) で、目標値には届かなかったが昨年度より少し改善された。アの内容とも関連するが、堺リベラル高校の開設で身だしなみを注意される生徒が減少している現状がある。次年度以降は1年次より計画的に指導を徹底していくことが必要である。マナー意識と同様に年々身だしなみ意識も高くなっては来ている。達成度については、目標数値を超えることができていないので、更に、自分の学校を大切に、より自分の母校にプライドを持たせ、身だしなみから整える意識を醸成していく。そして本校の制服の良さや魅力も示していきたい。